



◇委員の紹介◇

三井住友トラスト・アセットマネジメント株式会社
リサーチ運用部 企業リサーチユニット
ユニット長 チーフアナリスト
久保田 悟

2026年4月にサステナビリティ基準委員会（SSBJ）の非常勤委員に就任しました久保田悟と申します。私は旧三井信託銀行株式会社に入社し、2006年以降は資産運用業務における企業アナリストとして国内上場会社を中心とするリサーチ活動に取り組んで参りました。電気機器セクターなどを経て現在は主に自動車・自動車部品セクターを担当するとともに、20名強の企業アナリストのマネジメント業務にも従事しております。

弊社グループにおける企業リサーチのこれまでの歩みを振り返ってみますと、1993年のアナリストチーム設立から、2003年に個人投資家向け日本株SRIファンドを設定、2015年に企業価値向上を目的とした事業会社との対話の増加を背景に非財務情報評価のフレームワークを本格活用、2017年にスチュワードシップ活動の推進部署を分離設立、2021年にはESGマテリアリティに基づき外部ESGデータ等とアナリスト等のリサーチやエンゲージメントを活用した自社ESGスコアの導入と、財務情報の分析や予想を中心とするリサーチからサステナビリティ情報の分析とマネジメントとの対話を重視するリサーチへ時代の変化に応じて裾野を広げてきたことが確認できます。

そのような状況において、セクターアナリストである私にとっては、日本証券アナリスト協会主催のISSB基準セミナーシリーズ2023第5回「セクターアナリストに聞く！IFRS S2号（気候関連開示）の活用方法」にパネリストとして参加させていただき、サステナブルな企業価値創造と資本市場活性化の観点から、「サステナビリティ開示情報をどのように活用し、企業とどのように対話すべきか」について議論させていただいたことが、サステナビリティ情報開示の重要性を改めて認識する契機となりました。

その後、2024年11月から日本証券アナリスト協会「サステナビリティ報告研究会」の委員として活動させていただき、今般SSBJの委員に就任させていただくこととなりました。SSBJの役割であるサステナビリティ開示基準（日本基準）の開発並びに国際的なサステナビリティ開示基準の開発への貢献に関与させていただくことには重責を感じておりますが、セクターアナリストとしての経験を活かして、SSBJ委員の皆様と協力し、市場関係者の皆様のご期待に添えるべく微力を尽くして参ります。何卒よろしくお願いいたします。